

令和四年十二月二十一日（水）二学期終業式 校長式辞

おはようございます。

台風の影響により、九月に一日休業となった影響で、当初の予定より一日遅い二学期の終業日となり、長い二学期が本日で終了します。

二学期の始業日は八月二十九日で、記録的な猛暑であった夏の真っ盛りでしたが、季節が大きく変わり、寒い冬を迎えています。この地域で、大雨などの災害・被害も無く、こうして皆さんとともに、無事、令和四年度の二学期、そして令和四年の終わりを迎えられたことをうれしく、そして感謝しています。約四ヶ月前の、二学期始業式で、わたくしから、『心身共の健康維持に努めながら、学習や運動、読書、資格取得、進路の活動などで、力が発揮できる充実した学期になることを期待しています。』と述べておりましたが、皆さんにとっての二学期はいかがだったでしょうか？

学習で成果を上げた人、三年生で希望進路を見事に勝ち取った人、部活動で全国大会等に出場し活躍した人、研究活動に精を出した人、資格取得で成果を上げた人、図書館活動、生徒会等の委員会活動やボランティア活動等で成果を上げた人、この後の伝達表彰にもあります。さすが海洋高校生、それぞれの活躍が顕著でした。

そこで、皆さんの中には、何かの大きな目標を成し遂げたとき、「よかった。これでいい。」と安心・安住している人も多いのではないのでしょうか。

本日、私の述べたいことは一点、一人の人物を紹介します。

宮城県仙台市の安積 雅子さんです。この方は現在八十二歳で、現役の医者、お医者さんとして活躍しておられます。朝日新聞の記事の見出しから、最初に目にしたとき、八十歳を過ぎても医療の最前線で、現職で従事されていることに、矍鑠（かくしゃく）として、人生百年時代を象徴するような活躍されている方がおられ、さすがだなあと思っていました。

ところが記事を読み進みますと、この方は、六十二歳で医師国家試験を合格されたといふのです。皆さんも知っているとおおり、人の命に最前線で向き合う医師になるためには、最難関である大学の医学部に入学後、最低でも六年間学んだ上、国家試験に合格しなければなりません。

安積さんは、御結婚後、主婦として四人のお子様を育てられてから、「人生このまま過ごしていいのだろうか？」という思いを募らせ、専業主婦であった五十一歳の時から五年間猛勉強され、五十六歳で秋田大学医学部に入学されました。そして、三十歳以上も年の離れた学生たちとともに、医学部での学生生活を経て六十二歳の時、当時の最高齢での医師国家試験合格を果たされています。

安積さんは、五歳で父親を亡くされ、母が洋裁の仕事をして、女手一つで育ててもらったそうです。決して恵まれた境遇で育たれたわけではないようです。

こうして、何歳になっても夢をあきらめず、叶えるために努力を惜しまない生き方は、私たちに勇気や向上心の大切さを思い知らせていただけます。

安積さんの言葉で、「実験が好きだった」とおっしゃっていますが、自分で説明しようとする好奇心が旺盛な方なのだろうと想像できます。

ところで皆さんは、寒肥（かんごえ又はかんぴ）というのを知っていますか？

これは、果樹、例えばみかんの木や柿、リンゴその他、主に樹齢を重ねていない、何十年と年数の経っていない樹木に対して、十二月～二月、冬季に気温が下がり、成長・活動をほぼしなくなる時期に与えてあげる有機肥料のことです。それは、寒い時期に撒くことにより、それぞれの植物が花を咲かせる春や夏以降に効果が現れてくるのだそうです。花を咲かせる春や夏に施肥したのでは効果があまりなく、即効性がないのです。

寒い時期から長い時間をかけ、土中で植物により状態で利用されやすくなるように熟成され、効果が半年ぐらいいも経ってから現れるということ。このことは、私たち人間にも、同じことが言えるのではないかと思います。

今、力が発揮できなくても、あるいは直接結果が出なくても、後から、将来、開花することが多いのではないのでしょうか。また、若いときの苦労や訓練、学習がよかったのだと思えるのは、むしろ後から気づくことの方が多いと思います。

即ち、進路を決定した三年生の皆さんも含め、今の自分に満足せず、何かしらの向上心、よりよい人生を実現させるため、それぞれが、「今日は、これをやってみよう。」や「これができるようになるう。」など小さなことでもよいので目標を立て、主体的な態度で、この冬休みを過ごしてもらえればと思います。

この冬も、新型コロナウイルスの感染拡大が心配されています。集団での活動、対外的な活動に制限が少なくなっていますが、本校には寮や下宿があり、部活動も盛んで、感染拡大が起こりやすい環境であります。

来年一月十日、全員が元気で、この場を集ってくれることを楽しみにしています。そのためにも、一人一人が感染防止のために、体調管理や感染症対策に、気を緩めることなく、気をつけてください。

それでは、皆さん、よい年を迎えてください。

令和四年十二月二十一日

校長 上林 秋男